

木格子で跳ねるカレーうどんを表現

若鯨家 イオンモールナゴヤドーム前店

Japanese Noodle Restaurant WAKASHACHIYA Aeon Mall Nagoya Dome Mae
Designer: Masaki Machida / SPACE

愛知県名古屋市中区矢田南4丁目102-3 イオンモールナゴヤドーム前1階

設計/スペース 町田幹樹 試田雄貴

協力/照明計画 大光電機 生田 卓

施工/スペース 柳井洋也

撮影/ジュビリー



左/テーブル及びシャンデリアも、うどんを表現している。シャンデリアは、ファサードの木格子と重なり合うことで、奥行きを感じさせることを意図した。右/ファサード。ショッピングセンター「イオンモールナゴヤドーム前」の1階に位置し、ナゴヤドームを訪れた観光客も多く来店する



カレーうどんの魅力を 造形で表現する

「変わらないおいしさと、変わり続けるおいしさ」を追求する、愛知・名古屋で愛され続けているカレーうどん専門店「若鯨家」。創業約30年という歴史の中で構築されてきた店づくりを尊重しながら、店主の「変わり続ける、新しい空間にしたい」という要望に応え、概念的要素に変化を持たせることを企画した。

東海地方では「ちゅるちゅるうまうま」というフレーズで聞きなじみのある若鯨家のうどんの特徴を、「ハネ」の変化を持たせた木格子により表現。この「カレーうどんの木格子」を軸に、空間全体でカレーうどんを想起させることを試みた。計画地は、商業施設内のレストランとしては小さな21坪という床面積に対して、ファサードが長く奥行き浅い特殊な空間。そこで、ファサードを利用した「面」と客席中央に配置した「集合体」で「カレーうどんの木格子」を展開し、空間にインパクトと奥行きを演出した。

更に、「スパイス感」を付加するため、ベン

チシートのデザインは、ペッパーやターメリック、カルダモンなどのスパイスの重なり合いをイメージしている。また、Rを描きながら天井へと連続する壁面では、幾多の「スパイス」から「カレー」へとつながるグラデーションを、グラフィカルかつダイナミックに表現。その上に2対の「鯨」を配すことで、視覚的かつ造形的にカレーうどんの魅力を伝え、「名古屋」の若鯨家をキャッチーに発信する。

(町田幹樹/スペース)

「若鯨家 イオンモールナゴヤドーム前店」data

工事種別: 内装のみ 全面改築
床面積: 69.43㎡ (うち厨房15.83㎡)
工期: 2018年7月9日～8月20日
施工協力: 空間・設計水衛生・厨房設備/オークエンジニアリング 電気設備/大光電機 照明器具/大光電機 家具/オーグーファニチャー 什器/サンウッド サイン/エス・プロジェクト 特殊塗装/ジェネレーション・エックス 特注ビニルレザー/サンゲツ

営業内容

開店: 2018年9月6日 営業時間: 午前11時～午後10時
定休日: 不定休 電話: (052) 737-2115
経営者: 柳井雄家 高橋利子
従業員: 20人(うちパート・アルバイト19人)
客席数: 34席 客単価: 1010円 客回転数: 6.9回
主なメニューと価格: 名物カレーうどん880 カレーつけ

鶏1100 金シャチカレーうどん1380 名物カレーうどんセット1050 味噌煮込みうどん980 金満ランチのせせらめうどん(違い販売)1000 ビール580

主要仕上材

サイン: LEDチャンネル文字+SUS.HLパイプ
床: ホモジニアスビニルタイル貼り
壁: LCS編みF802.5下地鋼線系平形スレート貼り(SOLIDO typeM_FLAT セメント/ケイミュー) ゴールド特殊塗装の上スパイス柄グラデーション塗装 ファサード/アルミサッシ+木目シート貼り 不燃杉板材切り出しの上CL 開口部・グラフィックシート貼り
天井: LCS編みF8012.5下地AEP
家具: テーブル/集成材面取り加工の上クリアレジコーティング仕上げ ベンチ/特注ビニルレザー張り(サンゲツ)
什器: サンプルケース/化粧板貼り
照明器具: シャンデリア/ST成形下地木目シート貼り



看板メニューの「名物カレーうどん」(写真提供/柳井雄家)

共設から厨房方向を見る。ファサードの木格子は、メインメニューのカレーうどんが跳ねる様子を表現。また、開口部のガラスには、さまざまなスパイスをモチーフにしたグラフィックシートを貼っている